

第1回元町山手地区再整備基本構想・基本計画検討委員会県民会館部会 議事要旨

1 日 時 平成30年9月10日(月) 15時30分～17時30分

2 場 所 兵庫県民会館7階会議室 亀の間

3 出席者 別紙参照

4 内 容

※ 開会、あいさつ、部会長の指名、委員紹介、資料の説明については省略するとともに、各委員等の発言内容は一部要約しています。

- (委 員) 県民会館の利用者は、中高年齢層が多く、これは、今まで県民会館自身が作り上げてきた「発表の場」であるためだと思われる。
- それを踏まえると、今の子ども達や若者達は、個人的に何かのレッスンを受ける機会はあるが、文化に触れられる場や練習できる場所が少ないので、それらの機会を提供できれば良い。
- さらに、練習の場としての講座や練習のための利用料の割引などのソフト事業なども実施して、発表の場につなげていくことも大事である。
- また、子ども達をはじめ、人が集まる場所としては、開かれた図書館のような広いスペースが良い。図書には文化事業関係資料や映像を重視し、次のステップになるような仕組みがあったら良いと思う。
- (委 員) ホールを貸し出ししている場所というのは、本番のために場を貸すというのが一般的なので、レッスンの場や練習室というのは新鮮に感じた。レッスンをするという事は、いずれ発表の場の提供にも繋がるため、利用者も集まる。楽屋も必要だが、レッスンができるスペースも確保できれば良い。
- また、レッスンで借りる人が、最終的に発表の場としてホールを借りてもらえるのであれば、料金の割引などのインセンティブ機能をこの機会に作っても良いのではないか。
- 銀座や京都などの蔦屋書店を見ていると、スターバックスでコーヒーを飲みながら、図書館並の本の提供があるなど、若者が集まるような仕組みを取り入れている。そのような取組みをしないと、利用者の年齢層は下がらない。こうした事業者を、早い段階から計画に取り込む必要がある。
- 1階ロビーに蔦屋書店のような施設があり、2階吹き抜けの窓から緑が見えるようなスペースがあれば、雰囲気も随分変わる。
- 基本計画策定のためのプロポーザルを実施する際には、価格のみの競争とならないよう、業者の選定には十分注意願いたい。
- 絵画の分野では、団体展に絵を出していた人が自分で教室を開き、そこで習っている人を団体展に誘うなどして、毎年展覧会を実施しているのが一般的であるが、参加する人数は年々減ってきている。
- 県立美術館の貸ギャラリーでは、セミプロの団体が、通常、美術館では実施しないような企画展を美術館と共催で実施したり、原田の森ギャラリーでは、大きなアマチュア団体が、大規模な団体展を開催したりと、それぞれの役割分担を考え、ターゲットをどう絞っていくのか、実態調査をする必要がある。
- 最近では、プロジェクターを使った作品も多数あることから、機器の充

実や更新にはしっかり取り組んでもらいたい。

ギャラリーの小展示室は稼働率も低く、必要ないのではないか。新たに作るのであれば、最大で500～600㎡になるような大きな展示室を設けて、分割して使えるようにするのが合理的ではないか。パネルの仕切りでは、やはり音が漏れてしまうが、仕方ない。

特別展示室はグレードの高い人の利用が考えられるとのことだが、画廊が基本であり、借りてまで展覧会はしないので、多くの利用は見込めない。それよりも、若手や始めたばかりの人達のステップアップに繋がるような場を増やした方が良い。

天井高だが、兵庫県立美術館は7mあるが、天井高が高いとLEDのスポットライトが届かず、届くスポットライトは値段が高い。4mあれば十分である。

(委員) 特別展示室は、書道や工芸などのあまり画廊と係わりのない人達の利用も結構ある。

(委員) 音楽の利用率が低いのは、ホールの音響が悪い、楽屋がない、下手と上手が繋がっていないなど、周りの他のホールに比べて「音楽が出来ないホール」というイメージがあるからである。ただ、最近、音響反射板を導入するなどリニューアルを図ったことで、改善された。

360席規模の小ホールというのは、この周辺ではなかなかない。神戸市の区民ホールはだいたい600～800席ぐらいであり、新人には300～400席で丁度良い。

神戸山手短期大学の学生が、出身地から神戸の街に憧れてやって来て、JR元町駅の汚さに幻滅したという話も聞いたので、希望としては駅周辺も綺麗になれば。

また、県民会館は高齢者が沢山利用しているが、坂道や階段は体力的に厳しいので、アクセスの改善も考えてもらえないか。

今の県民会館は、機能としては良いものを持っている。この質を高めて、予算は掛かるが、十分な遮音・防音機能を持ったスタジオなどができれば良いと思う。

(委員) 夢としては、この辺りに潤いのある心の休まる空間が欲しい。例えば、銀座の一等地に屋上が緑化された建物などがあるが、そういう場所に行けばゆったりできる。建物の緑化はテーマであり、そこで潤いをもたらす、それは建物単体の話ではなく、ゾーンとして考えていくことが重要である。そのゾーンに来る人が、綺麗な空間として楽しめるようなスペースを是非考えていただいて、県民会館もその一連の中にあるような施設になれば良い。

今の県民会館は、業務中枢機能の提供という点で大きな役割を果たしている。それが平日の利用率にも表れている。その役割は引き続き果たしていく必要がある。

文化の機能については、若者が練習し、演奏する場として、利用率が低

い夜間に安価に利用できる施設とすることが望ましい。

また、良いホールを作ると、維持管理のコストが非常に高くなる。舞台の転換や音響、照明など色々な要素で経費が掛かってくる。今の県民会館はあまりコストを掛けないようにしているが、アマチュアや若者などが利用する際に負担ができるだけ少なくなるような設備も考える必要がある。

あまり良いホールを作ってしまうと、音響の効いた舞台を通常利用に転換するのに人員だけでなく時間も掛かる。そのため、コストが高くなり、それが利用者負担の増大につながる。この施設は何のためにあるのか、是非頭に入れて整備を進めてもらいたい。

今の県民会館の1階は、様々な人にゆったりと利用されている。非常に親しみを持たれた施設であり、それが県民会館にとって大きな魅力でもある。

ギャラリーについても、利用率が低いのは貸し出しを1日単位としているからである。他の施設のように週単位にすれば、利用率は高くなる。色々な工夫ができるような施設になればと思う。

(委員) 県民アートギャラリーは、この際ネーミングを変えてはどうか。

(委員) これまで県民会館はいくつかネーミングライツを実施したが、応募がなかった。

(委員) 全体の名称とギャラリーの名称は違って良いと思うので、元町山手ギャラリーなど、その場所がわかる名称をつけるなどが良い。

(委員) 県民会館の再整備のために、休館期間が生じると、他の施設に利用者が流れてしまい、戻ってこない可能性があるなど、非常にリスクがある。また、利用者もその間、発表する空間がなくなってしまう。そのため、休館期間が生じないように十分に配慮いただきたい。

(委員) アンケートで駐車場が少ないとの意見があったが、県庁と合わせて、総合的な大きな駐車場が必要ではないか。県庁と県民会館を分ける必要もないように思う。

(委員) これからの50年を見据えて考える必要があり、今まで通りの感覚で50年間は持たないので、思い切ったことを考える必要がある。

一つ目に、フリープランを提案したい。今の県民会館は小さい部屋が並び、どのような機関が入っているのかわからない状態になっている。例えば、パリにあるポンピドゥーセンターは、エレベーターといったコアの部分などの固定的なものを外部に出して、中はフリースペースにするという構成である。これからの時代、芸術文化の分野も大きく動くことがあるので、固定的な間取りでは追従ができないのではないかと。

二つ目に、華やかな形態を目指すべき。ビルバオのグッゲンハイム美術館が、5年間で1,000億円の経済効果があったと言われている。新たな注目される建築物ができると、その周辺に集客は生まれる。

兵庫県の場合、大阪、京都に比べて、それほどインバウンドの増加に期待できないので、地道に芸術文化の深耕を進めていくべき。とは言え、若い芸術家が憧れるようなランドマーク的な魅力がないと、人を集めることは難しい。経済効果があるならば、コストは掛けても良いのではないか。全体計画の先駆けになるのであれば、華やかな施設の方がインパクトも残せる。

三つ目に、基本計画のプロポーザルは、芸術家との共同プロポーザルを提案したい。建築家だけだと、全国の芸術文化の領域にアピールする力は弱い。応募条件として、芸術家と組むといったことを織り込み、大手設計事業者、建築家、芸術家との3者で進めていければ、より良いものができるのではないか。

(委員) 入居団体についても、出入りがあるのであれば、その都度改装をするわけにはいかないなので、ある程度弾力的な構造は必要になる。

また、県民会館を再整備する際には、現在入居する団体を引き続き入居させるのか、別の施設に移すのかの検討も必要になる。

(委員) 今の県民会館は、文化や業務中枢機能など色々な機能を持っているが、引き続き同じような機能を持たせるのか、一流の演奏家等を想定した文化の殿堂をイメージとする文化を前面に出した県民会館とするのか、その辺りは県としてはどのように考えているのか、ある程度はつきりして欲しい。

(委員) 県立芸術文化センターやピッコロ劇場といった施設と同じようなものを作っても仕方がない。例えば、音響関係は芸術文化センターに役割を担わせるようなコンセプトで行くのか、といったことはつきりさせる必要がある。

(委員) 県民会館は、県庁も近くであり、県関係団体の事務局が入っていることもあり、人の出会いが多くある。名が通っていない人が発表する場合でも、声を掛ければ見に来てくれる。それが県民会館の一番のメリットである。人との出会いを作る場所ということも踏まえて検討していただきたい。

また、音楽だけの専用ホールは難しいので、多機能ホールを目指すべき。

(委員) 県庁と県民会館を結ぶことは、利便性の向上ということで意味はあると思うが、JR元町駅から県庁や県民会館までを直結してしまうと、経済効果がなくなってしまう。周辺の飲食店などに立ち寄りなくなってしまう。

ギャラリーについて、搬入用エレベーターは必ず必要になる。また、床

の荷重も1 t/m²に耐えられるような造りにするべき。

(事務局)

本日は、貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。

今の県民会館について、良く出来ているとの言葉をいただいたので、これまでのうまくいっている伝統は、これからも大事にしたい。

その一方で、若年層の利用者が少ないといった意見や、華やかさが足りないのでランドマーク性が必要ではないかという意見もいただいた。

これらのいただいた意見を踏まえ、次回までに基本構想のたたき台となるようブラッシュアップして、再度意見をいただきたい。